

第138回 市町村職員を対象とするセミナー

「地域包括ケアシステムにおける薬剤師・薬局の役割」

在宅服薬支援事業 「高知家お薬プロジェクト」の推進

高知県健康政策部医事薬務課

高知県が目指すのは、県民の誰もが住み慣れた地域で、安心して暮らし続けることのできる「**日本一の健康長寿県**」です。

目指す姿の実現に向けて

- 平成22年2月 保健・医療・福祉の各分野の課題を分析し、「**日本一の健康長寿県構想**」を策定
- 平成24年2月 中山間対策や南海トラフ地震対策、目指す姿の明確化などの6つの視点を盛り込んだ「**第2期構想**」を策定（第2期：平成24～27年度）
- 平成28年2月 本県が抱える根本的な課題を解決するために、5つの柱を設定した「**第3期構想**」を策定

■ ■ 第3期「日本一の健康長寿県構想」の視点 ■ ■

◆本県が抱える根本的な課題を解決するために、第3期構想では新たに**5つの柱**を設定し、より本格的な対策を推進します

大目標Ⅰ 壮年期の死亡率の改善

全国に比べて高い壮年期世代の死亡率を改善します！

高知版地域包括
ケアシステムの構築

大目標Ⅱ 地域地域で安心して住み続けられる県づくり

必要な医療・介護サービスを受けられ、地域地域で安心して住み続けることのできる県づくりを進めます！

大目標Ⅲ 厳しい環境にある子どもたちへの支援

厳しい環境にある子どもたちの進学や就職などの希望を叶え、次代を担う子どもたちを守り育てる環境づくりを進めます！

大目標Ⅳ 少子化対策の抜本強化

「高知家の出会い・結婚・子育て応援団」の取り組みなどによって、少子化対策を官民協働の県民運動として展開します！

大目標Ⅴ 医療や介護などのサービス提供を担う人材の安定確保と産業化

医療や介護などのサービス提供を担う人材の安定確保と産業化を推進します！

「日本一の健康長寿県構想」大目標Ⅱ 地域地域で安心して住み続けられる県づくり

「日本一の健康長寿県構想」第3期 Ver.2 改編

地域での在宅医療の推進

○薬剤師の在宅訪問等による服薬支援
在宅服薬支援事業
「高知家お薬プロジェクト」の取り組みから、多職種・他機関の連携体制を強化し、安心して在宅医療（療養）できる環境整備

○中山間地域で在宅医療が選択できる環境整備 等



病気になっても安心な地域での医療体制づくり



救急医療の提供

○救急医療機関の強化と円滑な救急搬送



地域を支える医療従事者の確保

○在宅訪問薬剤師の養成とスキルアップ
○地域での多職連携体制を構築するための研修会の実施 等

地域での暮らしをバックアップ

日々の暮らしを支える高知型福祉の仕組みづくり

元気で住み続けるための介護予防の仕組みづくり

あったかふれあいセンターの整備と機能強化

障害児を社会全体で見守り育てる地域づくり

認知症の高齢者等を支える地域づくり

○薬剤師によるお薬・健康相談会の実施
○介護予防サービスの充実・強化
○それぞれの地域ニーズに対応した多様な福祉サービス提供体制の構築



自殺予防対策に取り組む地域づくり

○自殺予防ゲートキーパー養成研修（対象：薬剤師等医療関係者、市町村等）
○市町村レベルでの自殺対策の計画策定への支援
○うつ病やアルコール健康問題などへの対応力の強化

地域ニーズに応じた介護サービス提供の体制づくり

施設サービス（特別養護老人ホーム・老人保健施設など）

在宅サービス（ホームヘルパー・デイサービスなどの訪問・通所支援）

サービス利用への相談支援（地域包括支援センターなど）



障害の特性等に応じた切れ目のないサービス提供体制の整備

○医療的ケアの必要な子ども等とその家族への支援の強化

○中山間地域での介護・障害福祉サービスの確保
○第7期介護保険事業支援計画、期障害福祉計画の策定

介護等が必要になっても地域で暮らし続けられる仕組みづくり

<<参考>>
関係課の今後の取り組み

入院から在宅生活への円滑な移行に向けた医療と介護の連携

○患者に適した空き病床を幅広く選択できる「転院支援システム」の構築
○退院後の在宅生活に不可欠な情報を共有するため、保健所圏域ごとに「退院調整ルール」を策定



★在宅服薬支援事業「高知家お薬プロジェクト」が地域でうまくまわった後・・・プロジェクトの取り組みと、転院・退院・在宅の流れを支える関係課の仕組みづくりをつよめる→このために各課も連携して事業を推進する

在宅



「患者のための薬局ビジョン」推進事業

「患者のための薬局ビジョン」

～「門前」から「かかりつけ」、そして「地域」へ～

健康サポート機能

健康サポート
薬局

- ☆ 国民の**病気の予防**や**健康サポート**に貢献
 - ・要指導医薬品等を適切に選択できるような供給機能や助言の体制
 - ・健康相談受付、受診勧奨・関係機関紹介 等

高度薬学管理機能

- ☆ **高度な薬学的管理ニーズ**への対応
 - ・専門機関と連携し、**抗がん剤**等の**副作用対応**や**薬剤の選択**などを支援 等

事業1)
高知家
健康づくり
支援薬局



かかりつけ薬剤師・薬局

服薬情報の一元的・継続的把握

- ☆ **副作用**や**効果**の継続的な確認
- ☆ **多剤・重複投薬**や**相互作用**の防止
- ICT(電子版お薬手帳等)を活用し、
 - ・患者がかかる**全ての医療機関の処方情報を把握**
 - ・一般用医薬品等を含めた服薬情報を一元的・継続的に把握し、薬学的管理・指導

24時間対応・在宅対応

- ☆ **夜間・休日、在宅医療**への対応
 - ・**24時間**の対応
 - ・**在宅患者**への薬学的管理・服薬指導
- ※ 地域の薬局・地区薬剤師会との連携のほか、へき地等では、相談受付等に当たり地域包括支援センター等との連携も可能

事業2)
在宅服薬支援
事業「高知家
お薬プロジェクト」

医療機関等との連携

☆ 疑義照会・
処方提案

☆ 副作用・服薬状況
のフィードバック

・医療情報連携ネット
ワークでの情報共有

☆ 医薬品等に関する相談
や健康相談への対応
☆ 医療機関への受診勧奨

1.在宅服薬支援事業「高知家お薬プロジェクト」に係る経緯

■ 平成26～27年度

患者の飲み残し薬アンケート調査を実施（委託先/徳島文理大学薬学部）

目的：残薬の実態を調査する

残薬発生要因の分析と要因に応じた薬剤師の服薬支援方法を検討する

結果：残薬を持参した患者「70歳以上」 71.0%

薬の管理者として「本人のみ」 76.3%

→ 主に高齢者への適切な服薬支援が必要

残薬発生要因としては「記憶があいまいなことによる飲み忘れ」が最も多かった



- ・薬剤師が定期的に患者の服薬状況を確認し、改善が必要な場合の対処が必要
- ・特に在宅患者には身近な支援者が必要



医療・介護関係者と薬剤師が連携した服薬支援が重要！

2.在宅服薬支援事業「高知家お薬プロジェクト」に係る経緯

■ 平成28年度

在宅服薬支援事業「高知家お薬プロジェクト」の取り組み開始

モデル地区：南国市、香南市、香美市（高知県中央東福祉保健所圏域）
〆飲み残し薬、がきっかけ



■ 平成29年度

モデル地区の拡充、取り組みの継続・定着

モデル地区：高知県中央東福祉保健所圏域、高知市
多職種合同報告会の開催

参加職種：医師、歯科医師、薬剤師（病院・薬局）、訪問看護師、保健師、
介護支援専門員、医療ソーシャルワーカー、介護士 など



■ 平成30年度

高知県全域で取り組み

かかりつけ薬剤師・薬局が持つべき機能の一つ「在宅対応」について、薬局間連携
により対応できる仕組みづくり

2. 在宅服薬支援事業「高知家お薬プロジェクト」の概要

目的

医療・介護関係者が連携して、高齢者等の在宅での服薬状況を改善することにより、薬物治療の効果を高める。



本事業を通して

- ◆ 多職種と薬局・薬剤師の連携を強化
- ◆ 安心して在宅医療（療養）ができる環境を整備

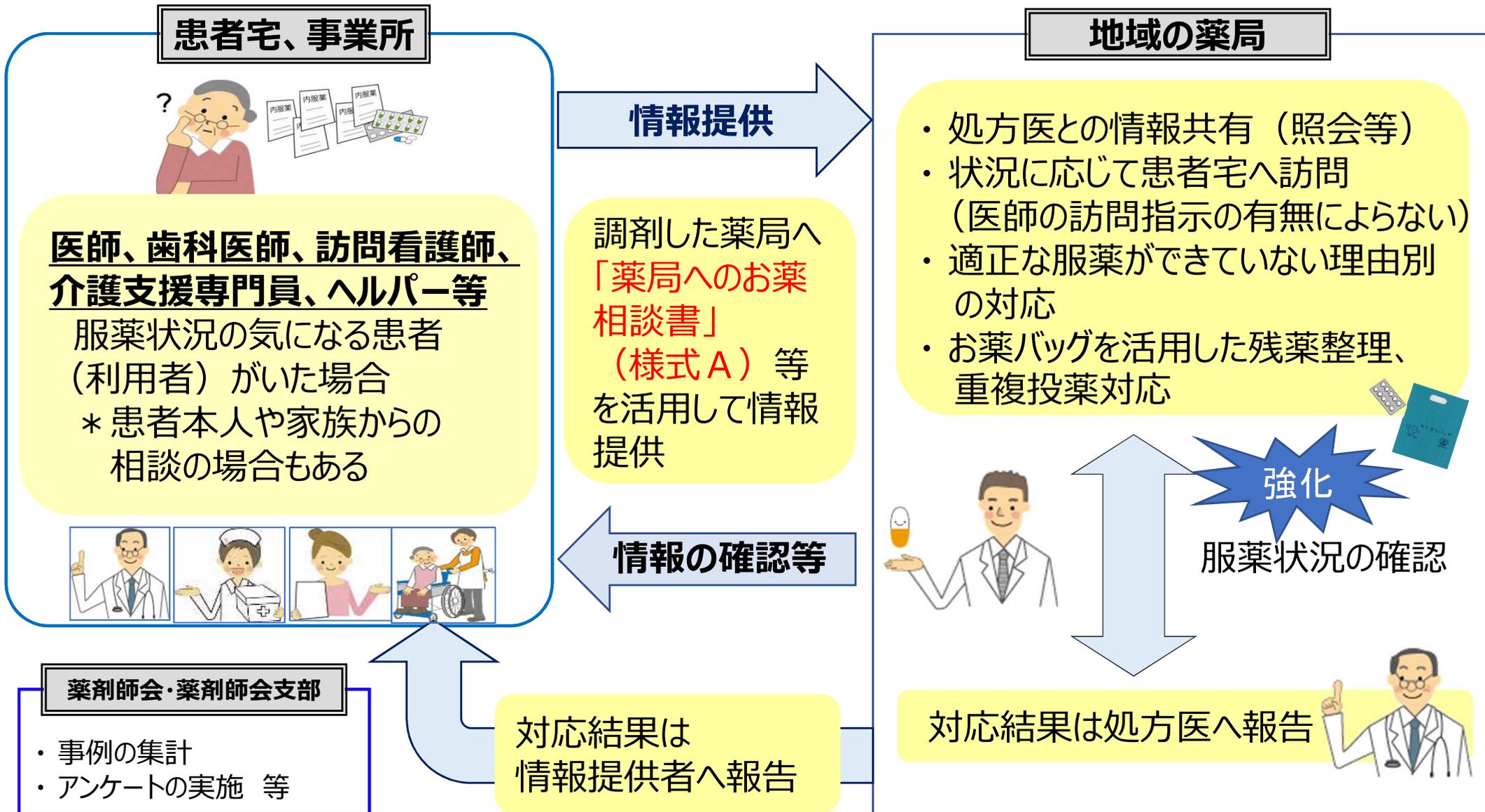


H37年には、すべての薬剤師・薬局がかかりつけ薬剤師・薬局としての機能を持ち、多職種・他機関と連携して地域包括ケアシステムの一翼を担う存在となる

H27年10月 厚生労働省「患者のための薬局ビジョン」より

2. 在宅服薬支援事業「高知家お薬プロジェクト」の概要

進め方



2. 在宅服薬支援事業「高知家お薬プロジェクト」の概要

多職種連携ツール

医療・介護関係者から薬剤師へ 「薬局へのお薬相談書」(様式A)

とある訪問看護師
からの声・・・
「現場では残薬以外の問題も
多くあります」

▶平成27年度
飲み残し薬に着目した相談書

▶平成28年度(様式をバージョンアップ)
飲み残し薬だけではなく、服薬状況に
ついて気になることは何でも相談してい
ただけるように項目を追加

*** 残薬に限らず、お薬でお困りのこと、お気軽にご相談下さい。 ***

A **薬局へのお薬相談書**

お薬について相談がある場合にご利用下さい。皆様からの情報をもとに、薬の適正使用を目的として、患者(利用者)さんの服薬支援を行います。

【注意事項】

1. 薬袋にある薬局名とFax番号をご記入のうえ、調剤した薬局へ送信して下さい。調剤した薬局へ直接お渡しいただいてもかまいません。
2. 薬局への情報提供に際しては、患者(利用者)さんの同意を得て下さい。
3. この相談書により、患者(利用者)さんが医師や薬剤師から咎められる等の不都合な状況には決してなりませんのでご安心下さい。
4. この相談書を用いなくてもかまいませんので、お薬のことはお気軽にご相談ください。

薬袋にある薬局名: 宛 (Fax:)

チェックを忘れないでね!!

この相談は患者(利用者)さんの同意を得ています。

相談内容

対象患者(利用者): 様

※ 対象患者名は記入しなくてもかまいませんが、その場合薬局より確認のお電話をさせていただきます。

* 該当する項目にチェックマークをお願いします(複数チェック可)。
また、参考となる情報がございましたら、自由記載欄にご記入ください。

お薬が残っています。

- 調剤してもらった薬局に持参するよう、お伝えしました。
- 残薬が多く整理ができていないので、対応をお願いします。
- その他(自由記載:)

残薬以外の相談があります。→ 詳細は自由記載へ

自由記載

相談内容の確認や対応のフィードバックのため、薬局から電話などで直接話をお伺いする場合があります。

貴所属とご担当者名をご記入ください。 →

送信日: 年 月 日

ご所属名:
連絡先☎:
ご担当者:

【ご担当者職種】チェックをお願いします。

- 医師
- 歯科医師
- 薬剤師(病院・薬局)
- 介護支援専門員
- 訪問看護師
- 介護福祉士・介護士
- その他()

高知県薬剤師会 在宅服薬支援事業「高知家お薬プロジェクト」Ver.4

9

2.在宅服薬支援事業「高知家お薬プロジェクト」の概要

多職種向け事業広報チラシ

重要 多職種への事業広報

- 例
- * 地域ケア会議など多職種が集まる会議や勉強会での紹介
 - * 地域包括支援センター、近隣の訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所などへの紹介

多職種へは、様々な機会を通じて継続的にプロジェクトの紹介を行っています。

お薬のことは薬剤師へご相談下さい！在宅服薬支援「高知家お薬プロジェクト」

服薬状況が気になる患者さん・利用者さんは いらっしゃいませんか？ 薬局薬剤師にご相談下さい。

訪問看護師、介護支援専門員、ヘルパー等（多職種の皆さま）

服薬状況が気になる患者さん・利用者さんがいらっしゃる場合

患者（利用者）の同意の有無を確認したうえで、**薬局薬剤師へ情報提供**

* 患者さんご本人やご家族からの相談の場合も

薬局への連携ツールの一つとして、「薬局へのお薬相談書」（様式A）をご活用ください。

なお、様式Aの使用の有無は問いません。お電話でもかまいませんので、お気軽にご相談下さい。

高知県薬剤師会ホームページからダウンロードできます。

情報共有

薬局 ↔ かかりつけ医・歯科医

・処方医との情報共有（照会等）
・情報提供者への状況聞き取り
・状況に応じて患者宅へ訪問（医師の訪問指示の有無によらない）
・適正な服薬ができていない理由別の対応
・おくすりバッグを活用した
残薬整理、重複投薬対応

▶ 対応結果は情報提供者（多職種）、処方医へ報告

＜目的＞
医療・介護関係者が連携して、高齢者等の在宅での服薬状況を改善することにより、薬物治療の効果を高める。

本事業を通して

- ① 多職種と薬局・薬剤師の連携を強化してまいります。
- ② 安心して在宅医療（療養）ができる環境を整備してまいります。

10

公益社団法人高知県薬剤師会 TEL 088-873-6429

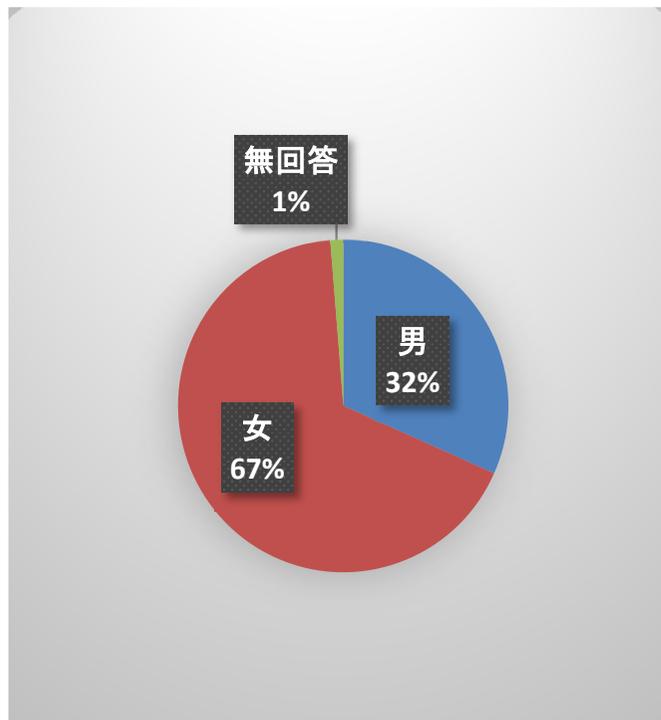
3.在宅服薬支援事業「高知家お薬プロジェクト」の結果

平成29年度結果

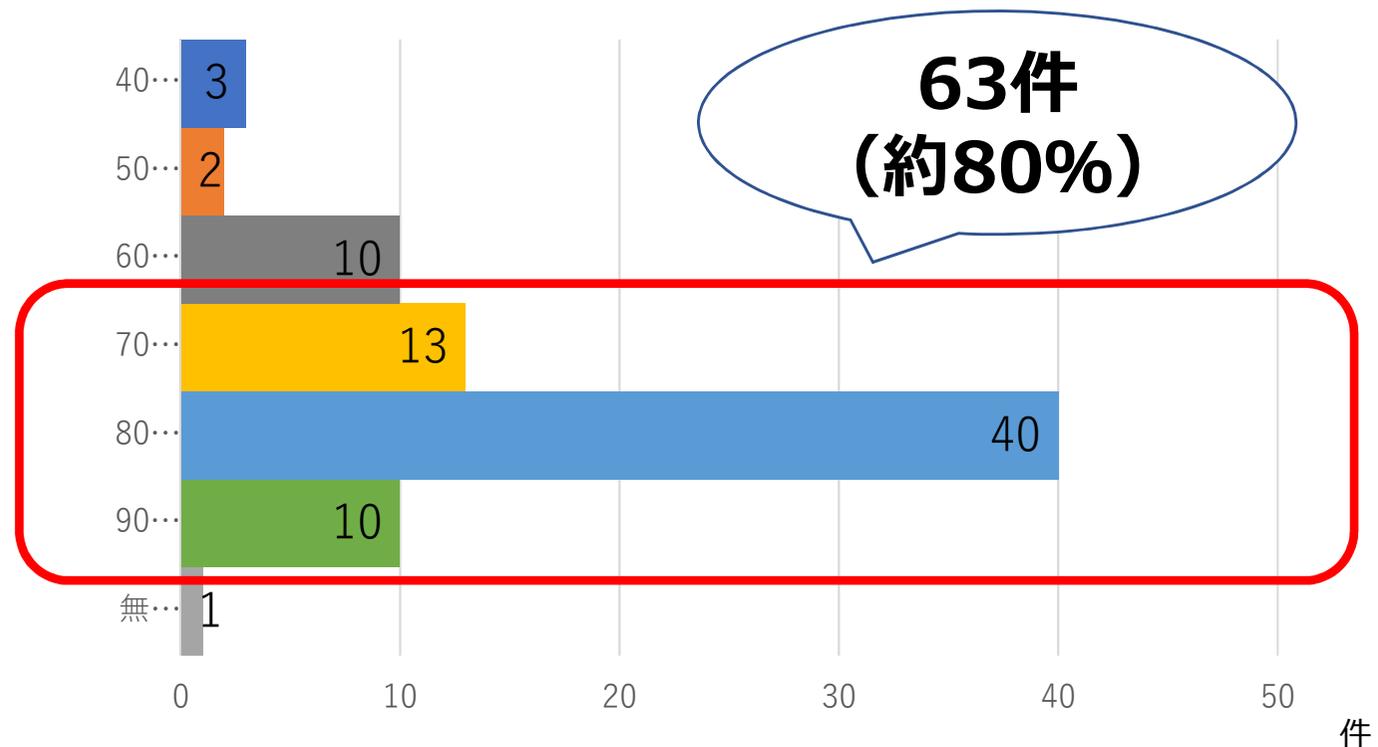
薬局からの事例報告より

- モデル地区の薬局への情報提供：**79件**（事例収集は4ヶ月間）

性別



年齢



3.在宅服薬支援事業「高知家お薬プロジェクト」の結果

平成29年度結果

薬局からの事例報告より

■ 薬剤師の対応内容

残薬整理による服薬支援：76件（97.4%）

－ 在宅訪問を実施した事例：21件（27.6%）

■ 対応結果

－ 残薬が減少した事例：52件（70.3%）

－ その他

- ・ 一包化により飲み忘れが減少し、服薬支援者の負担が減った
- ・ 薬剤師が介入したことで、適正に服薬できていなかった原因が分かり、主治医に処方変更を提案して服薬アドヒアランスが向上した。また、多職種と連携することで問題点が共有でき、改善策について一緒に考えることができた。

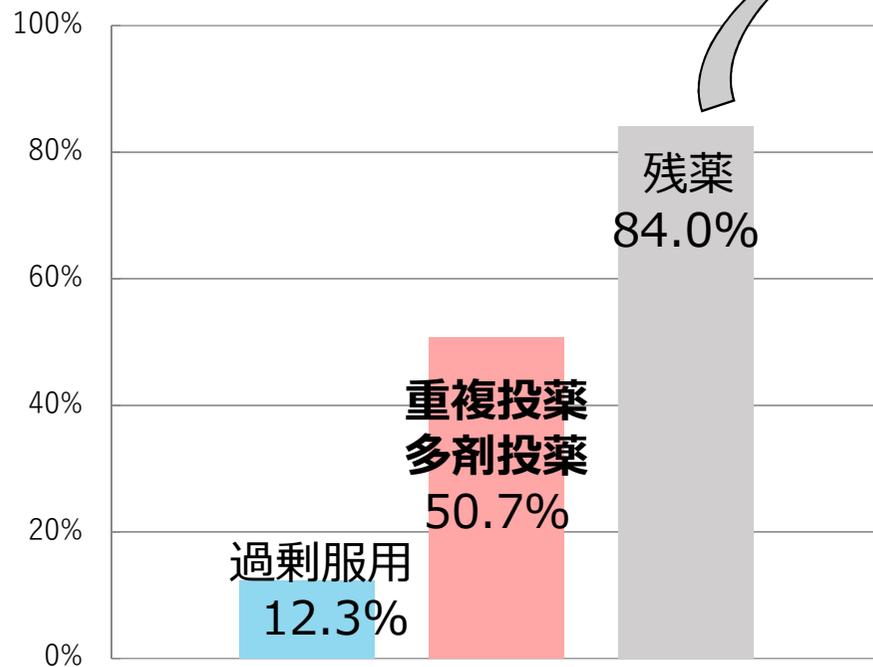
3.在宅服薬支援事業「高知家お薬プロジェクト」の結果

平成29年度結果

薬局へのアンケート調査結果より

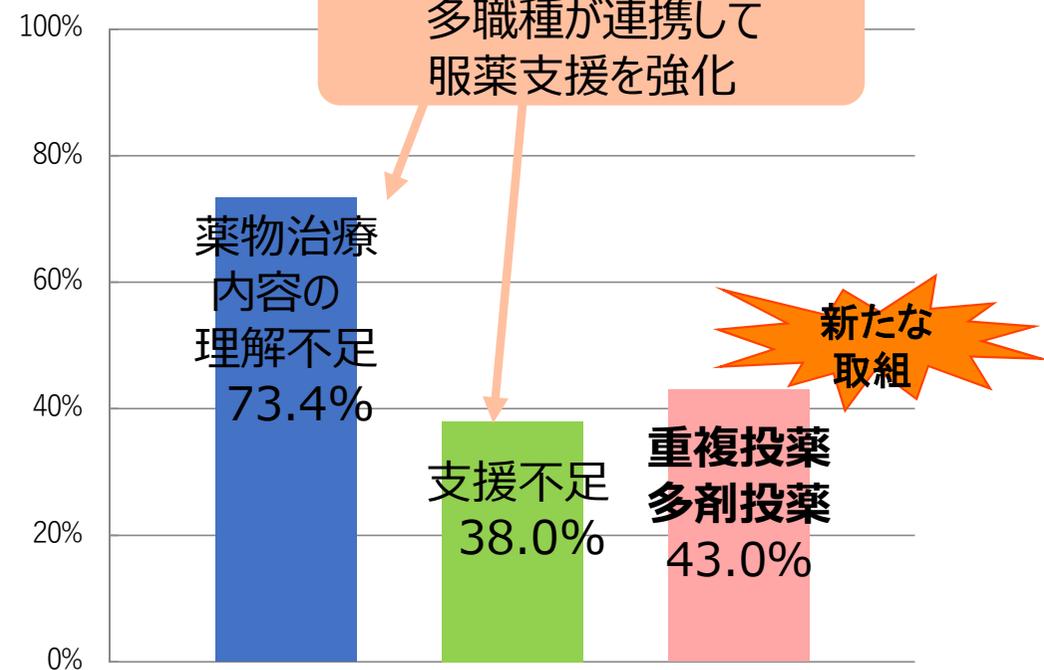
患者、患者家族、医療・介護関係者等
から薬局への相談内容

※複数回答あり



残薬発生要因

※複数回答あり



- 認知機能低下等による理解不足が見られる
- 薬に対する不安（副作用等）がある
- 独居等により服薬支援者がいない
- 薬の数が多くて整理がつかない

3.在宅服薬支援事業「高知家お薬プロジェクト」の結果

平成29年度結果

本事業に対するご意見（多職種アンケートより）

- ✓ 今まで薬局への相談はあまりしたことがなかったが、相談につながるきっかけになったと思う。（看護師）
- ✓ チームでの関わりが大切なため、今後必要度が高まると考えます。（訪問看護師）
- ✓ 薬剤師さんの活用の方法がわからない人もいると思うので、広く知ってもらうためには、良いプロジェクトと考えます。（介護支援専門員）
- ✓ 連携ツールがあることにより、相談が手軽になる。（介護支援専門員）
- ✓ 様式がシンプルで分かりやすく記入しやすい。（介護支援専門員、介護福祉士）
- 使用する際、同意を得なければならないため、使用しづらい。（訪問看護師）
- FAXだけでは顔の見える連携はつukれない。（訪問看護師）
- 連携ツールがあることを知りませんでした。（介護支援専門員、保健師）

3.在宅服薬支援事業「高知家お薬プロジェクト」の結果

考察

- 高齢患者を中心に、薬剤師による薬局店頭や在宅訪問時の服薬状況の確認の強化と、訪問看護師・介護支援専門員・ヘルパー・薬剤師等がそれぞれの専門性を発揮しながら連携した患者支援が重要
- **市町村（地域包括支援センター）等と地域の薬剤師間に連携が生まれ、「地域ケア会議」や「出前講座」等への薬剤師の派遣要請が増加 → 地域活動における多職種連携につながっている**



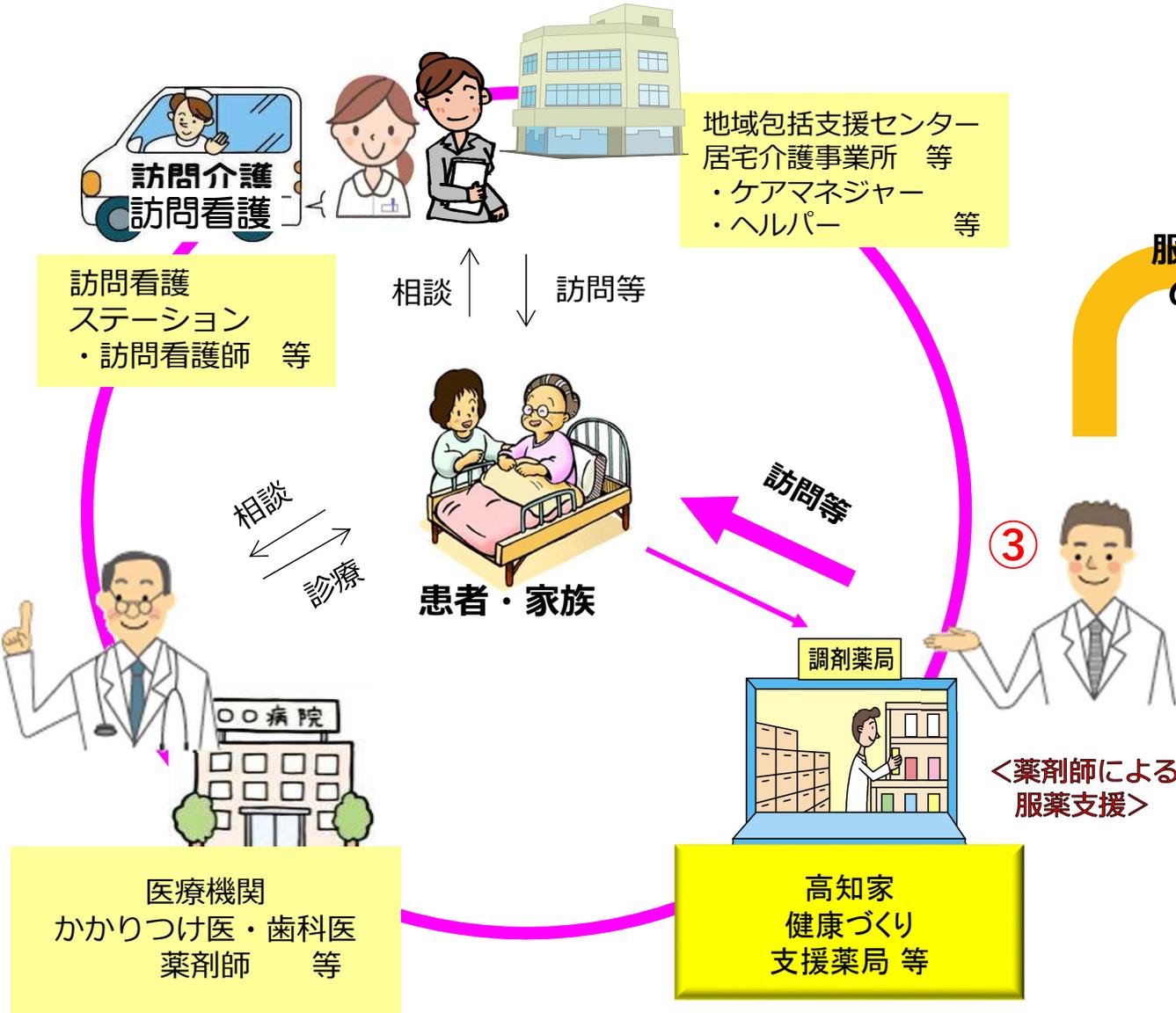
薬剤師・薬局が、

「高知版地域包括ケアシステム」の一翼を担う存在となるため、引き続き、薬剤師・薬局の役割や取り組みをPRしていく

4.在宅服薬支援事業「高知家お薬プロジェクト」の今後の展望

在宅療養患者への服薬支援

在宅服薬支援事業「高知家お薬プロジェクト」



通院患者への服薬支援

服薬状況の確認が特に必要な患者

